

機関番号：35402

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20320130

研究課題名（和文） 地理教育におけるESD（持続可能な開発のための教育）カリキュラム
開発の総合的研究研究課題名（英文） A Comprehensive Study on the Curriculum Development for Geographical
Education for Sustainable Development

研究代表者

中山 修一（NAKAYAMA SHUICHI）

広島経済大学・大学院経済学研究科・名誉教授

研究者番号：30084122

研究成果の概要（和文）：

日本政府の提案により「国連ESDの10年」に決議され、ユネスコが国際実施計画を策定したESD（持続可能な開発のための教育）は、我が国では、新学習指導要領に「持続可能な社会の構築のための学習」の実践として盛り込まれた。本研究の成果は、国内外の教育改革をめぐる近年の動向に即応し、地理教育分野での取組みについて、理論的な整理を行うと共に、主要国の事例調査を踏まえ小学校から大学までの授業実践モデルを提示することで、国際社会が取り組む新しい教育改革の推進に具体的に答えることができた。

研究成果の概要（英文）：

The United Nations Decade of Education for Sustainable Development (UNDES 2005-14) was proposed to the world by the Japanese Government. The Japanese Government introduced this concept into the national curriculum to be implemented from 2011 as a study of “sustainable society”. This research project has succeeded in clarifying the theoretical framework for ESD in schools, and in developing various lesson plans to be easily applied for primary schools under the revised courses of study through universities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	7,000,000	2,100,000	9,100,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：持続可能な開発，ESD，持続発展教育，持続可能な社会，地理授業，地理教材

1. 研究開始当初の背景

(1) 2002年，日本政府はヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発のための世界サミット」において、「国連持続可能な開発のための教育の10年（2005-14）」（以下，国連ESDの10年）を提案。同年末の国連総会において全会一致で採択された。国連は，直ちにユ

ネスコを「国連ESDの10年」の主導機関に指名した。

(2) 2005年，ユネスコは日本政府提案の重点事項を盛り込んだ「国連ESDの10年国際実施計画」を策定し，その推進を加盟国に要請した。

(3) 2006年、ユネスコの「国連ESDの10年」実施計画を受けた政府は、「わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画を策定し、学校教育を中心に全ての教育活動において、その積極的な導入を呼びかけた。

(3) 2008年、文部科学省は新しい教育基本法を受け、我が国初の「教育振興基本計画」を策定し、向こう5年間の重要施策の一つとして、持続可能な開発のための教育の推進を盛り込んだ。同時に文科省は、学習指導要領を改訂し、持続可能な開発のための教育の推進策として、「持続可能な社会の構築のための教育」を、小、中、高校の教育課程に盛り込んだ。

2. 研究の目的

本研究は、持続可能な社会の構築のための教育は、社会科学系教科に大きな役割があるとされることから、地理教育分野のカリキュラムについて、理論と実践の両面から総合的に研究し、2011年度の小学校での新学習指導要領の実施に間に合わせるべく、2010年度内に研究成果を世に問うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 初年度の2008年度には、我が国における「持続可能な開発のための教育」の進捗状況を整理するとともに、メンバーが手分けして、米国、英国、ドイツ、中国、インドネシアにおける同教育の進捗状況の現地調査を実施した。また、同時に国内外の実践事例等について検討を行った。

(2) 2年度目の2009年度には、初年度の成果を踏まえて、我が国の学校現場に実践可能な同教育の理論化と授業プランの開発を実施した。

(3) 最終年度の2010年度に、研究成果の取りまとめを行い、ホームページ並びに印刷媒体で成果をまとめ公開することを目指した。

4. 研究成果

(1) 2年度までの成果の公開のため、ホームページ「地理教育・ESDフォーラム」(<http://www.esd-geography.com/>) 試行版を開設した。また、最終年度に、同ホームページを大幅に改善し、プロジェクト終了後も研究成果の発信が行える体制を整えた。

(3) 最終年度に、研究成果『持続可能な社会と地理教育実践』(古今書院)を、理論編、実践編、海外編、評価論編と4部に分け、全28章でまとめ公刊した。

(4) 同書は、地理教育界のみならず、国連ESDの10年の推進に関連する分野で大きな反響を呼び、研究成果が教育分野を中心に一定の影響を生んだことを確認できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計44件)

(1) 永田成文 (2011) : ESDの視点を導入した小学校社会科における公害学習の単元開発—社会的論争問題としての四日市公害を事例として—, 三重大学教育学部研究紀要, 62巻(教育科学), 177-188, 査読無.

(2) 永田成文 (2011) : ESDの視点を導入した小学校における異文化理解学習—遠隔会議による国際交流を活用して—, 三重大学国際交流センター紀要, 6号, 97-110, 査読無.

(3) 湯浅清治 (2011) : 高等学校における「総合的な学習の時間」を活用したESDの展開(Ⅱ), 学部・附属学校共同研究紀要(広島大学学部・附属学校共同研究機構), 39号, 117-122. 査読無.

(4) 湯浅清治 (2011) : 持続可能な社会を考える地理教材—宮崎県諸塚村の取組みを事例として—, 中等教育研究紀要, 57号, 39-46. 査読無.

(5) Dieter GROSS · Shuichi NAKAYAMA (2010) : Drivers and Barriers to Implementing ESD with Focus on UNESCO Action and Strategy Goals for the Second Half of the Decade. *Global Environmental Research*, vol.14, no.2, 125-136, 査読有.

(6) 卜部匡司 (2010) : ドイツの基礎学校におけるESDの実践に関する一考察, 徳山大学総合研究所紀要, 第32号, 17-26, 査読無.

(7) 佐藤真久 (2010) : アジア地域における持続可能性にむけた教育—当該地域の地域活動に見られるESDの潜在性. ESDと水環境と地域・人づくり, 水環境学会誌(水環境学会), 33巻1号, 8-14, 査読有.

(8) 田部俊充・永田成文 (2010) 米国地理教育におけるESDの現在—北米環境教育学会報告およびポータルランドでの取組み—. 地理, 55-9, 104-110, 査読無.

(9) 田部俊充 (2010) : ニューオーリンズと防災学習, 地図中心(日本地図センター), 455号, 28-29, 査読無.

(10) 中山修一 (2010) : 持続発展教育の過去, 現在, 未来. 中等教育資料(ぎょうせい), 895号, 10-15, 査読無.

(11) 永田成文 (2010) : 市民性を育成する地

理学習の授業構成—オーストラリア NSW 州中等地理『人口問題』単元の分析を通して—, 社会系教科教育研究 (社会系教科教育学会), 22 号, 21-30, 査読有.

(12) 永田成文 (2010): ESD の視点を導入した地理教育の授業構成—オーストラリア NSW 州中等地理を事例として—. 社会科教育研究 (日本社会科教育学会), no. 109, 28-40, 査読有.

(13) 湯浅清治 (2010): 高等学校における「総合的な学習の時間」を活用した ESD の展開, 学部・附属学校共同研究紀要 (広島大学学部・附属学校共同研究機構), 38 号, 99-104. 査読無.

(14) 湯浅清治 (2010): 日本の林業での改善, 学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究 中間報告, 国立教育政策研究所, 90-99. 査読無.

(15) 湯浅清治 (2010): 高等学校における総合的な学習の時間を活用した ESD の展開. 学部・附属学校協同研究紀要 (広島大学学部・附属学校協同研究機構), 38 号, 99-104. 査読無.

(16) 和田文雄 (2010): 探究能力の育成をめざす高校地理学習—「地球温暖化」の授業開発と実践を通して—, 新地理, 58-2, 18-29. 査読無.

(17) 和田文雄 (2010): 新学習指導要領が示す高校地理のありかた—持続発展教育 (ESD) 組み込みの意義—, 地理 (古今書院), 55-11, 18-22. 査読無.

(18) 卜部匡司 (2009): 地理教育と ESD の関係—カリキュラム論の立場から—. 地理教育フォーラム, 9 号, 4-8, 査読無.

(19) 卜部匡司 (2009): ESD は平和教育にどう位置づくか? 徳山大学論叢, 68 号, 63-75, 査読無.

(20) 金戸哲・永宮祐司・佐藤真久 (2009) ドイツにおける「持続可能な開発のための教育 (ESD)」関連プログラムと ESD 評価枠組みの構築に向けた議論の現状と課題—ESD に関する国際的議論に基づいて. 日本環境教育学会関東支部年報, 3 号, 21-26. 査読有.

(21) 志村 喬 (2009): イギリス地理授業における ESD の取り組み—授業づくりのモデルと理論的背景. 地理 (古今書院), 54 巻 3 号, 64-73, 査読無.

(22) Toshimitsu TABE・Shigefumi NAGATA・Masahisa SATO (2009): Education for Sustainable Development in K-6. 新地理, 第 57 巻特別号, 104-109, 査読無.

(23) 佐藤真久 (2009): 英国のサステイナブル・スクールの展開—8 つの導入テーマ

(Doorways) と 3 つの機動力 (3Cs), 教材開発における配慮事項に焦点を置いて—. エネルギー環境教育研究, 第 4 巻, 1 号, 25-32, 査読有.

(24) 田部俊充 (2009): 幼稚園・小学校における ESD 実践の可能性と地図・地球儀指導. 地理教育フォーラム (地理教育懇話会), 9 号, 17-19, 査読無.

(25) 中山修一, 佐藤真久 (2009): 国連 ESD の 10 年ユネスコ国際実施計画の策定背景とアジア太平洋地域における ESD の展開にむけた配慮事項. エネルギー環境教育研究, 第 4 巻 1 号, 9-16, 査読有.

(26) 永田成文 (2009): 高等学校地理における異文化理解を深める文献調査学習—異文化交流の仮想体験を活用して—. 地理教育研究 (全国地理教育学会), no. 5, 1-10, 査読有.

(27) 永田成文 (2009): 社会参画の視点からの中学校「身近な地域の調査」の検討. 地理教育研究 (全国地理教育学会), no. 4, 5-6, 査読有.

(28) Shigefumi NAGATA, Toshimitsu TABE・Masahisa SATO (2009): Pollution education in social studies as a part of ESD in elementary schools. 新地理 (日本地理教育学会), 第 57 巻特別号, 110-114, 査読有.

(29) 永田成文 (2009): 地理における持続可能な開発を視点とした地球的課題に関する学習. 地理教育フォーラム (地理教育懇話会), 9 号, 9-16. 査読無.

(30) 永宮祐司・佐藤真久・小堀洋美 (2009) ESD (持続可能な開発のための教育) と内発的発展の関連性—ESD 国際実施計画と ESD に関する国際的な議論に基づいて—. 日本環境教育学会関東支部年報, 3 号, 47-48. 査読有.

(31) 和田文雄 (2009): 持続可能な開発のための教育 (ESD) としての高等学校における地理授業開発—学習指導案「ドイツ統一と地域格差」—. 中等教育研究紀要 (広島大学附属福山中高等学校), 49 号, 235-242. 査読無.

(32) 和田文雄 (2009): 持続可能な共生社会を考えるコンピテンシー. 社会科教育 (明治図書), 597 号, 103. 査読無.

(33) 佐藤真久・中山修一 (2008) ヨーロッパ地域とアジア太平洋地域の DESD 国別指標プロジェクトに関する比較. 環境教育 (日本環境教育学会), 17 巻 6 号, 3-14. 査読有.

(34) 佐藤真久 (2008) ESD の評価に関するヨーロッパ地域の実施動向—国連欧州経済委員会 (UNECE) の ESD 評価プロジェクトに焦

点をおいて一. ESD-J (「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議) 報告書, 2008 年度版, 138-144, 査読無.

(35) 佐藤真久・中山修一 (2008) ヨーロッパ地域とアジア太平洋地域の DESD 国別指標プロジェクトに関する比較. 環境教育 (日本環境教育学会), 17 巻 6 号, 3-14, 査読有.

(36) 佐藤真久 (2008): ESD の評価に関するヨーロッパ地域の実施動向—国連欧州経済委員会 (UNECE) の ESD 評価プロジェクトに焦点をおいて一. ESD-J (「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議) 報告書, 2008 年度版, 138-144, 査読無.

(37) 湯浅清治 (2008): 総合学習 中 1 前期「住よい地域」のあり方を考える—ESD 教材としての“地域環境”—. 中等教育研究開発室年報 (広島大学附属中・高等学校), 22 号, 137-139. 査読無.

(38) 和田文雄 (2008): 地理教育は ESD (持続可能な開発のための教育) にいかに寄与すべきか—一日独地理教育 ESD 会議の報告—. 地理 (古今書院), 53-11, 105-109. 査読無.

[学会発表] (計 31 件)

(1) 中山修一・和田文雄・高田準一郎: 持続発展教育としての ESD, 日本地理学会春季学術大会「地理教育」シンポジウム, 2011 年 3 月 30 日, 明治大学.

(2) 和田文雄: ESD としての地理教育の革新, 第 187 回地理教育懇話会, 2011 年 3 月 26 日, 広島大学附属中高等学校.

(3) 高田準一郎: 岐阜聖徳学園大学におけるユネスコサークル結成とユネスコスクールに向けての取り組み, 第 187 回地理教育懇話会, 2011 年 2 月 5 日, 広島大学附属中高等学校.

(4) 湯浅清治: 日本農業における多面的形態の可能性—農地の多様な活用の可能性—, 第 187 回地理教育懇話会, 2011 年 2 月 5 日, 広島大学附属中高等学校.

(5) 和田文雄: ESD の視点に立つ授業能力の育成—授業実践の成果と課題—シンポジウムの総括と今後の活動について, 第 186 回地理教育懇話会, 2010 年 12 月 4 日, 広島大学附属中高等学校.

(6) 志村喬: 地域多様性をふまえた持続可能な空間環境を実現する地理教育—イギリスにおける ESD 地理教育から—, 日本社会科教育学会第 60 回全国研究大会シンポジウム「持続可能な社会の形成のために社会科は何かできるか」, 2010 年 11 月 13 日, 筑波大学.

(7) 和田文雄: ESD としての地理教育の可能性—『国際実施計画』をてがかりとして—

地理科学学会秋季学術大会シンポジウム「サステイナビリティ いま, 地理教育が問われているもの」2010 年 10 月 30 日 広島市 (広島市まちづくり市民交流プラザ).

(8) 和田文雄: 新学習指導要領がめざす高校地理について—持続発展教育 (ESD) の視点より—, 第 185 回地理教育懇話会, 2010 年 9 月 25 日, 広島大学附属中高等学校.

(9) 田部俊充・永田成文: 北米環境教育学会第 38 回大会報告及び ESD 先進地域ポータルの取り組み, 日本地理教育学会, 2010 年 8 月 21 日, 山梨大学.

(10) 志村喬: ESD を組み込んだ地理学習材の開発—フードデザート問題研究成果を活用して—, 日本地理教育学会第 60 回大会, 2010 年 8 月 21 日, 山梨大学.

(11) 田部俊充: アメリカ合衆国における州学校アトラス作成を中心とする地理教育振興策, 日本国際地図学会, 2010 年 8 月 20 日, 日本大学文理学部.

(12) 志村喬: これからの地理学習を充実させるポイント—ESD を組み込んだ授業の創造—, 長岡市教育センター研修講座, 2010 年 7 月 9 日, 長岡市教育センター.

(13) 永田成文: 小学校における ESD をテーマとした国際交流学习—TV 会議システムによる遠隔会議を活用して—, 日本生活科・総合的学習教育学会第 19 回全国大会, 2010 年 6 月 26 日, 立命館小学校.

(14) 志村喬: 学習指導要領と ESD (持続可能な開発のための教育), 社会科教師のための勉強会 (第 1 回), 2010 年 5 月 26 日, 上越教育大学附属中学校.

(15) 永田成文: ESD の視点を導入した社会科における環境保全学習—リサイクル問題を事例として—, 日本環境教育学会第 21 回大会, 2010 年 5 月 22 日, 沖縄県男女共同参画センター.

(16) 湯浅清治: 持続可能な林業をめざす村—宮崎県諸塚村—巡検報告, 第 181 回地理教育懇話会, 2010 年 4 月 24 日, 広島大学附属高校.

(17) Masashi URABE: Bildung für nachhaltige Entwicklung im japanischen Kontext - eine Aussensicht auf den Diskurs in Deutschland. In: Symposium: Kompetenzorientierung im Lernbereich, Globale Entwicklung / Bildung für nachhaltige Entwicklung im 22. Kongress in Mainz (Universität Mainz). (「日本の文脈における持続可能な開発のための教育—ドイツの議論に対する外からの視点」ドイツ教育学会 (第 22 回大会), 2010 年 3 月 15 日,

マインツ大学.

(18) 和田文雄 : ESD としての地理教育—IGU 地理教育委員会の「地理教育国際憲章」と 2 つの宣言文より, 第 181 回地理教育懇話会, 2010 年 4 月 24 日, 広島大学附属中高等学校.

(19) 和田文雄 : 持続可能な社会をめざす中学校地理の授業開発—単元; オセアニア・多文化主義をめざすニュージーランド, 第 180 回地理教育懇話会, 2010 年 3 月 27 日, 広島大学附属中高等学校.

(20) 卜部匡司 : 持続可能な社会づくりのための授業論. 岡山大学・学内COE「ESD 実践のための学校教員養成プログラムの構築」リレーセミナー, 第 2 回, 2010 年 2 月 27 日, 岡山大学.

(21) 志村喬 : ESD (持続可能な開発のための教育) の理念と学習材開発. 新潟県社会科教育研究会 (資料活用研修会), 2010 年 2 月 20 日, 上越教育大学学校教育実践研究センター.

(22) 高田準一郎 : 日本の教育史における ESD の位置づけ, 第 179 回地理教育懇話会, 2010 年 2 月 20 日, 広島経済大学立町キャンパス.

(23) 和田文雄 : 大学における地誌教育の実践—ESD の視点から—, 第 179 回地理教育懇話会, 2010 年 2 月 20 日, 広島経済大学立町キャンパス.

(24) 中山修一 : 学校教育における ESD の推進. 岡山大学・学内COE「ESD 実践のための学校教員養成プログラムの構築」リレーセミナー, 第 1 回, 2010 年 3 月 13 日, 岡山大学.

(25) 湯浅清治 : チェックシートアプローチによる「日本の林業」での改善, 第 4 回「学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究」実践者会議, 2010 年 2 月 8 日, 国立教育政策研究所.

(26) 中山修一 : ESD・持続発展教育の時代がやってきた—改訂学習指導要領が求める「持続可能な社会」の学習とは?—. 香川大学教育学部附属教育実践センター (公開講演会), 2009 年 12 月 5 日, 香川大学.

(27) 高田準一郎 : ユネスコ協同学校計画の教育実験と地理教育への展開. 第 59 回日本社会科教育学会・全国研究大会, 2009 年 11 月 22 日, 香川大学.

(28) 中山修一 : 新学習指導要領と持続可能な社会づくり (ESD) の授業構成—地理授業にニューウェイブを起こす ESD—. 日本地理教育学会例会, 2009 年 11 月 1 日, 日本女子大学.

(29) 卜部匡司 : ドイツの基礎学校における ESD の実践に関する一考察. 日本比較教育学会 (第 45 回大会), 2009 年 6 月 27 日, 東京

学芸大学.

〔図書〕 (計 23 件)

○次の(1)~(18)は, 中山修一・和田文雄・湯浅清治 編著, 古今書院, 『持続可能な社会と地理教育実践』, 2011 年, 262p. の分担執筆である.

(1) 中山修一 (分担) : 1 章 新学習指導要領に入った ESD—「持続可能な社会」の学習—(1-9), 2 章 地理 ESD 教材開発の目標, 内容, 方法 (10-15).

(2) 中山修一・佐藤真久 (分担) : 3 章 国連 ESD の 10 年ユネスコ国際実施計画の策定背景とアジア太平洋地域における ESD の展開に向けて (16-25),

(3) 高田準一郎 (分担) : 4 章 日本のユネスコ教育史における ESD の位置付け (26-32).

(4) 佐藤真久・吉川まみ (分担) : 5 章 ミレニウム開発目標と持続可能な開発のための教育の整合性を重視した国際教育協力における学びのサイクル (33-43).

(5) 田部俊充 (分担) : 6 章 幼稚園・小学校における地図・地球儀の活用焦點を当てた ESD 授業 (44-54).

(6) 前田俊二 (分担) : 7 章 新学習指導要領小学校社会科における ESD 授業 (55-61).

(7) 永田成文 (分担) : 8 章 ESD の視点を導入した社会科における環境保全学習—リサイクル問題を事例として— (62-70), 9 章 多文化共生を考える小学校社会科における異文化理解学習—ESD の視点を導入して— (71-79), 24 章 アメリカ合衆国オレゴン州における ESD の推進—グラッドストーン学区を事例として— (213-218).

(8) 和田文雄 (分担) : 10 章 持続可能な社会をめざす中学校地理の学習開発—小単元: オセアニア・多文化社会をめざすニュージーランド— (80-89), 14 章 高等学校地理における探求学習の授業開発—「大井川のダム開発」の学習指導案— (122-128), 15 章 高等学校における ESD としての地理授業開発—「ドイツ統一と地域格差」の学習指導案— (129-136), 19 章 大学における地誌教育の実践—持続可能な開発のための教育 (ESD) の視点から— (169-175).

(9) 湯浅清治 (分担) : 11 章 中学校社会科地理的分野の授業における ESD の視点を取り入れた単元開発—持続可能な社会の構築を目指す森林資源の活用— (90-97), 17 章 高等学校における「総合的な学習の時間」を活用した ESD カリキュラムの開発—広島大学附属中・高等学校の実践例— (148-154).

(10) 志村喬 (分担) : 12 章 持続可能な地域

社会形成力を育む中学校地理的分野の学習
材開発—地域社会問題「フードデザート問
題」への探究— (98-110), 23章 イギリス
におけるESDを組み込んだ地理授業モデルと
開発理論 (202-212).

(11) 高田準一郎 (分担): 13章 中学校にお
ける「ユネスコ教育の基本方針」の内容と策
定までの経緯—広島大学附属中・高等学校の
場合— (111-121), 16章 ドイツ・ヴォーバ
ン地区におけるまちづくり読解のための授
業構成—「持続可能な都市化の授業開発」
(137-147).

(12) 澤滋久 (分担): 18章 大学基礎科目で
のパーム油経済開発問題を題材としたESD授
業 (155-168).

(13) 卜部匡司 (分担): 20章 ドイツにお
けるESDの概念 (176-180), 21章 ドイツの基
礎学校におけるESDの実践 (181-189).

(14) 佐藤真久・岡本弥彦・五島政一 (分担):
22章 イギリスにおけるサステイナブル・ス
クールの関連施策・取組と日本の教育実践へ
んも示唆 (190-201).

(15) 佐藤真久・小泉真吾 (分担): 25章 ア
メリカ合衆国ERICデータベースにおけるESD
関連論文の計量書誌学的分析 (219-228).

(16) 植村広美 (分担): 26章 中国における
国家発展戦略としてのESD (229-238).

(17) 佐藤真久・中山修一 (分担): 27章 ヨ
ーロッパ地域とアジア太平洋地域における
DESD国別指標プロジェクト—その共通性と
差異性— (239-251).

(18) 佐藤真久 (分担): 28章 DESD中間会合
(ボン会合)の成果とこれから—ボン宣言の
採択とDESD中間レビューに基づいて— (252
-260).

(19) 佐藤真久: ESDにおける「知の構築」の
あり方、「持続可能性」・「開発」・「教育」を
橋渡しする開発コミュニケーションに焦点
を置いて, 生方秀紀・神田房行・大森亮 編,
北海道教育大学ESD図書, 『持続可能な社会
への教育—地域から創る未来への教育』,
2010年, 28-42.

(20) 高田準一郎: 地理教育の諸問題・論争
点, 学術図書出版社, 社会認識教育学会編『地
理歴史科教育』, 2010年, 73-82.

(21) 志村喬: 風間書房, 『現代イギリス地理
教育の展開—「ナショナル・カリキュラム地
理」改訂を起点とした考察—』2009年, 291p.

(22) 田部俊充: 環境教育の教材1 (地球温
暖化), 環境教育の教材3 (リサイクルをテ
ーマにした模擬授業の取組み), 古今書院,
中村和郎ほか編『地理教育講座 第IV巻 地
理教育と系統地理』, 2009年, 964-969, 979

-990.

(23) 田部俊充・田尻信壹 編著, 風間書房
『大学生のための社会科授業実践ノート』,
2009年, 100p

[その他]
ホームページ等
<http://www.esd-geography.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中山 修一 (NAKAYAMA SHUICHI)
広島経済大学・大学院経済学研究科・名誉
教授
研究者番号: 30084122

(2) 研究分担者

田部 俊充 (TABA TOSHIMITSU)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 20272875
志村 喬 (SHIMURA TAKASHI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・
准教授
研究者番号: 70345544
高田 準一郎 (TAKATA JUNICHIRO)
岐阜聖徳学園大学・教育学部・准教授
研究者番号: 80454289
永田 成文 (NAGATA SHIGEFUMI)
三重大学・教育学部・准教授
研究者番号: 40378279
佐藤 真久 (SATO MASAHISA)
東京都市大学・環境情報学部・准教授
研究者番号: 00360800
澤 滋久 (SAWA SHIGEHISA)
広島経済大学・経済学部・講師
研究者番号: 00314782

(3) 連携研究者

前田 俊二 (MAEDA SHUNJI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 20165640
卜部 匡司 (URABE MASASHI)
徳山大学・経済学部・経済学部・准教授
研究者番号: 30452600

(4) 研究協力者

和田 文雄 (WADA FUMIO)
福山大学・広島経済大学・非常勤講師
湯浅 清治 (YUASA SEIJI)
広島大学附属中・高等学校・教諭
植村 広美 (UEMURA HIROMI)
名古屋経営短期大学・講師
研究者番号: 10614000

(以上)